

教育委員会だより

令和6年3月21日号 多治見市教育委員会 教育総務課

くめざす子ども像
お互いを尊重し、
主体的に学び、
挑戦する多治見の子

本年度の総括 ～第2回 教育行政評価委員会～

3月1日(金)には、本年度2回目の『教育行政評価委員会』を開催しました。まず、事務局から施策1～5について本年度の取組実績と成果・効果や次年度の方向性について報告・説明しました。その後、それぞれの施策の報告内容について各委員からご意見を伺いました。ご意見の主なものは、次のとおりです。

[施策1] 体力・学力を高める教育・保育の推進

- ・幼保小中一貫の取組をしっかり予算化し、継続により成果を上げている。
- ・学ぶ楽しさを実感できる授業を行い、結果として学力向上につなげたい。
- ・『学校情報化先進地域』の認定は、GIGAスクール構想推進の大きな成果。

[施策2] 社会性と豊かな心を育む教育の推進

- ・今の時代だからこそ、人権教育やキャリア教育の充実を一層図りたい。
- ・横断的な体験を重視し、子供の世界観や可能性を広げる教育となっている。

[施策3] 家庭・学校・園、地域の連携の推進

- ・ボランティアへの参画意識は高いので、各種行事への積極的参加を促したい。
- ・中体連大会や部活・ジュニアクラブ・地域クラブの在り方を整理したい。

[施策4] 多様な課題に応じた支援の推進

- ・いじめ解消率や学校満足度(hyper-QU)からも、本市の取組は評価できる。
- ・医療的ケアや学びの多様化への対応など、大変手厚く行われている。

[施策5] 学びを支える教育環境の充実

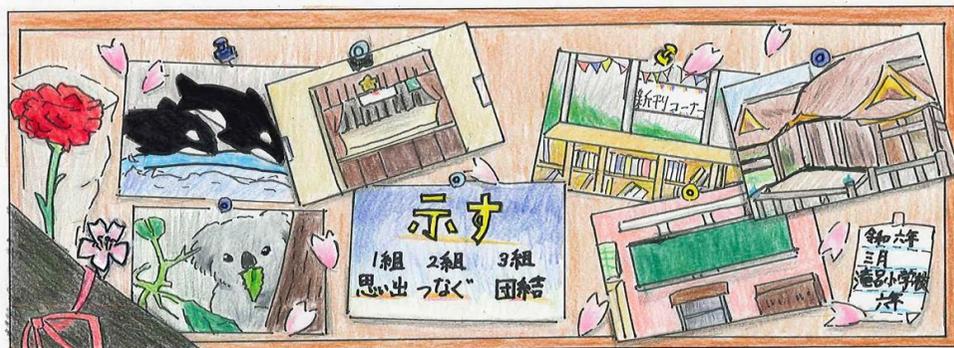
- ・教職員の働き方とともに、働き甲斐に着目した成果検証を行っていききたい。

厳かな雰囲気の中で ～中学校 卒業式～

3月8日(金)は、各中学校で卒業式が執り行われました。暖かな日差しで風も無く、とてもさわやかな朝になりました。令和元年度末から新型コロナの影響を受け混沌とした中での実施が続いてきましたが、久しぶりに“フルスペック”での実施となりました。学校によって若干の進め方の違いはあるものの、緊張感をもって卒業証書を手にする姿、祝辞や式辞に真剣に耳を傾ける姿、思いの丈を卒業合唱に込めて歌う姿、そして、それを見守る保護者や在校生、教職員。それらすべてが一つのまとまりとなって厳かな雰囲気を醸し出していました。

カップに詰まった思い出 ～卒業記念品 披露会～

3月19日(火)は、滝呂小学校で『卒業記念品 披露会』が行われました。同校では毎年、卒業生への記念品としてオリジナルマグカップが贈られています。制作にあたっては、地元の(有)丸半製陶所様にご協力いただき、代表児童のデザインによる素敵なカップに仕上がっています。今年デザイン(写真参照)も、6年間の思い出がいっぱい詰まった作品でした。披露会は、カップの披露や代表児童の言葉に始まり、教育長による感謝状の贈呈、市長の挨拶、柴田武司社長様のご挨拶、お礼の合唱と続きました。柴田社長様からは「マグカップを作らせていただくことが、毎年、社員の楽しみにもなっています。これからもがんばってください!」という温かいお言葉をいただきました。また、西尾校長先生のご挨拶の中で「10年、20年先にカップを手にとってみた時、今とはまた違う気持ちで小学校生活を振り返ってください。」という言葉が印象に残りました。



たまごの発掘は? ～高校生ミニ教育実習～

県教育委員会では、地域の小・中学校と高校が連携し、教員志望の高校生が教職の魅力に触れる機会となるよう『教員のたまご発掘事業』を行っています。3月中旬には、陶都中学校へ高校生35名が訪れ、ミニ教育実習に参加しました。

中学生からは「親身になって教えてもらえて嬉しかった。」、高校生からは「教えることで自分の理解も深まった。」「教員志望なので、とても勉強になった。」などの感想が聞かれました。

今回参加した高校生が“先生のたまご”として育ち、いつか孵化して多治見の学校で教壇に立ってくれることに期待しています!

